



- ツーリズム EXPO
 - 世界に羽ばたくツーリズムの学生達
 - PBL 特集
 - ・ PBL 座談会
 - ・ ツーリズム人物図鑑
- 片桐由希子 助教
- 令和元年 12月号



観光科学 PBL 特集!!!

▲PBL 最終発表にて。肩の荷が下りて、みんな笑顔ですね!

快挙! 学生賞受賞!

今年の夏、4年生の有志5名で観光予報プラットフォーム(PF)活用コンテストに取り組み学生賞をいただきました。テーマを「自然災害による観光地への風評被害の早期払拭を目的とする効果的な復興キャンペーン提案にむけた示唆」とし、北海道胆振東部地震を対象に震災後の宿泊客数の変動やその属性について考察しました。10月25日のツーリズム EXPO では表彰式が行われ、観光 PF を利用して来客予測を行う「糸びや」(伊勢市)の取り組みについて聞き、大変刺激をうけました。

▼受賞式にて堂々とプレゼンを行う三石さん(B4 清水研)



他の受賞者との集合写真▲

観光予報プラットフォームとは
「地域の活性化」や「サービス事業者の生産性向上」を目指す自治体、観光協会、DMO、企業に対して、宿泊を基軸にした「観光」に関連、必要とされるデータを提供するプラットフォームです。これらのデータを活用することで、ターゲットや施策をより明確化する事が可能となります。様々なデータを集計、分析するなどして、地域活性に繋がる有効な施策の立案・アクションを作り出すことができます。(HPより引用)

世界を舞台に“活躍する”ツーリズムの学生達!

ツーリズムコースには海外留学などを通して海外で活躍する学生も多くなります。前期半年間マレーシアで留学をしてきた二人の学生に留学経験について聞いてみました!

日原研究室 B4 屋良英未絵さん

■マレーシア留学のきっかけ
元々海外留学に興味があり、留年せず、奨学金が貰えるというのが大きな決め手でした。また欧米圏ではなく、東南アジアでの生活が未知数で、自分の可能性に挑戦してみたいと思い留学を決めました。

■マレーシアで勉強したこと
派遣先が経済・経営学部だったので、経済・経営学の基礎、観光の授業、マレー語なども履修しました。

■留学中の思い出/ハプニングなど
様々な国から来た学生とシェアハウスをしたこと。お互いの国の話をしたり、料理を振る舞ったり、毎日が異文化交流でした。クレジットカードを3回スキミングされました。

■留学を考えてる人へのメッセージ
留学する事ではなく、留学して何をやるかだと思います。悔いの無いような留学生活になりますように!

沼田研究室 M1 小林祥くん

■マレーシア留学のきっかけ
もともと海外留学に興味があり、そんな時にかわいい子の留学制度を知ったからです。

■留学では何をしていたのですか?
マレーシアでは卒論のための調査研究を行っていました。現地の国立公園へデータを取りに行ったりもしました。あとは現地の人と一緒にご飯を食べたり遊んだりして、マレーシアの文化や言葉を知ることができました。

■滞在中の思い出やハプニングは?
イスラム教の風習であるラマダン(断食)を経験しました。自分は3日間しか持ちませんでしたが、現地の人には1ヶ月も続けます。その期間中は日中お店が閉まっていたり、毎晩夜市が開かれていたり国全体の雰囲気が一変します。

■留学を考えている人へのメッセージを!
留学では旅行と違い現地に住むことによって、知ることが多くあります。そしてその国を知ることはもちろん、日本を客観的に見ることができます。私は自分がかに日本のことを知らないかを痛感しました。留学だけが絶対であるわけではありませんが、留学がその人の人生にとって貴重な経験になることは間違い無いと思います。



世界に飛び出す!

PBL 座談会 —参加学生たちによる本音トーク—

3年生にとって最初の試練として立ちはだかる観光科学 PBL。今年度前期のテーマは「アウトレットからニュータウン・里山へ」。南大沢のアウトレットを来訪する買い物客をターゲットに、周辺での観光レクリエーションプログラムを提案するものです。グループワークをサポートした大学院生 TA と、3年生たちが半年間を振り返る座談会を開催しました。

日時：8月1日(木)
司会：TA M1 青木 大川 天目
参加者：A 班 石野・黒須 B 班 篠・渡辺 C 班 芹沢



■半年間の感想について

司会：実際にやってみて大変だったと思いますが、一番どこが大変だった？

黒須：先生方に言われたことを全部直そうとしてしまって、迷走に迷走を重ねてしまった。あと、5人で集まれる日がほとんどなかった。

篠：途中、男子と女子に分かれて作業をしていて、お互いの方向性が違うということはあった。自分たちの主張も、男子と女子で食い違っていて…もめるまでは行かなかったが、すりあわせが大変だった。

渡辺：あと、部活やバイトで抜けるという感じでみんなの予定が合わなかった。

芹沢：C 班は、授業の終わりに宿題を出して、作業日の最初に擦り合わせていた。女子が軸を決めて、男子が肉付けするという役割分担ができていたのでやりやすかった。

■PBL を経て学んだこと

司会：PBL で一番学んだことはなんですか？授業的な意味でも、人生的な意味でも。

芹沢：アウトレットでのアンケートをやるってなった時に、質問に関して先生のアドバイスで気づかされたことも多かったし、実際にやってみて必要のないデータも多かった。(アンケートは)やる前にきちんとどういう結果出るかを考えるのが必要だなと思いました。

渡辺：優等生の回答やん笑

芹沢：あとお金、それを負担する主体を決めてなかったの、考えるべきだったなど。

渡辺：自分の意見を批判されて何も感じなくなった。最初はいちいち悲しかったけど、全部突っぱねて我が道を行く感じ。

篠：授業ごと、先生ごとに言っていることが違うので、どれが大事が考える力がついたと思います。

芹沢：先生に言われたことを真似していた。アイデア出しも時間を決めてやっていた。

黒須：時間決めても終わらないけどな・・・やっぱりリーダーが大事だなと。

篠：B 班は、一人一人の役職があって巧く回っていたのかなと。誰かが引っ張っているわけではない。

司会：自然とそういう役割分担ができるのはすごいよね。

■南大沢を見直してみよう

司会：テーマは南大沢でしたが、改めて南大沢を見てみて見方・印象って変わりましたか？

渡辺：学校の往復しかしたことがなかったので、住みやすいなと思うようになった。結構いい街なのかなと。

石野：歩車分離とかは良かったけど、提案を考えるうえで、全然資源ないじゃなかった。

芹沢：ランニングという点から見ると歩車分離は良かった。子供できた時には住みやすい街だなと思いました。

篠：実家が池袋なので、そこと比べてしまうと、南大沢は何もないなど。

黒須：観光資源と住みたいと思う資源はイコールじゃない。住みたいと思う資源はいろいろあったが、観光資源を考えるとないなど。

■来年に向けたメッセージ

司会：最後に来年の後輩のためにメッセージを！

渡辺：ある程度は人の意見を聞いて、大事なところがぶれないようにするのが大事だなと、自分たちらしさがなくなってしまわないようにするのが大事。

篠：計画的にやるのが大事。テスト期間と被っていたので、結局終電までやるみたいなのも多かったの。

石野：余裕なくなると、やばい雰囲気になってしまうこともあったので、余裕を持つのが大事だと思います。

黒須：話し合いの時の雰囲気大事だなと。笑顔とか、否定しないとか、イライラしないとか。諦めるのも大事で、悪い雰囲気で続けていてもよくないので、切り替えも大事。

芹沢：提案型のグループワークでは相手のことをちゃんと考えなければならぬ。自分たちがやりたいことだけでなく、相手がどうしてほしいかを考えることで早く成功に近づくんじゃないかなと思いました。

渡辺：真面目だ笑

終始、穏やかな雰囲気です座談会を終えることが出来ました。

授業ではわからない一面も垣間見え、とても良い会になったと思います。後期からは違うメンバーで新たな課題に向かいますが、適度に真剣に、適度に楽しんでやってほしいですね。来年、研究室でお会いしましょう！半年間お疲れ様でした！

編集後記

今号は、学生達の活躍について多く取りあげてみました。といっても、これもほんの一部。多分野融合だからこそ、活躍の舞台も広いのがこのコースの良いところだと改めて実感させられます。また、学生と先生との間を取り持つTAという立場を悪用し、本コースの目玉とも言えるPBLを特集してみました。学生はPBLの想い、狙いを理解し、先生方は学生からのフィードバックを受け、来年以降のPBLに少しでも何か活かされれば幸いです。



ツーリズム人物図鑑 vol.3 PBL 特別号
地域計画・マネジメント領域 片桐由希子 助教

今回の人物図鑑は、PBL 特別号ということで、数年間に渡り計画領域 PBL の運営の中心を担っていらっしゃる片桐先生にフォーカス。PBL の狙いや今後の展望、また、片桐先生自身の思いを打ち明けてもらいました。

PBL は実践する力を付ける練習の場

チームで議論し提案として組み立てる経験値に

■観光科学 PBL のねらい

計画領域が担当する PBL では、「空間を考える」こと、「資源を読み込む」こと、それらの「ストーリーをつなげる」ことを軸に、まちづくりを観光の視点から考えることに挑戦しています。そのための材料となるのが各自の気づきや問題意識です。この材料を持ち寄り、一人ではなく複数人で議論します。その過程で、「立場による解釈の違い」を理解することは、自らの考え方の視野を広げるのみならず、実社会の様々な場面で求められる力を体験的に学ぶ機会になると思います。

■TA (院生) と「共導」する

TA には主に2つの役割を期待しています。一つは、グループの議論を活性化すること。堂々巡りの議論に陥りがちなところに、発想の転換、みんなの可能性を広げる役割です。もう一つはワークショップのやり方を示すこと。タイムマネジメントであるとか、雰囲気づくりといったようなワークショップの基礎が身につくように実践的に教える役割です。TA 自身 PBL での経験、反省も活かしつつ、フォローしてくれると嬉しいですね。

■今年度前期 (4月～7月) の PBL について

みなさん問題意識がはっきりしていて、「自分はこうするべきだと思う」という考えが持っていました。PBL は座学とは異なり、手法を実践的に勉強する場でもあるので、議論を盛り上げつつも、まとめ上げるリーダーシップを身に付けられるよう、今後も意識して取り組んでほしいです。これは社会に出てからも必ず役に立つ技能です。

■これからの PBL について

PBL では、初期の課題発見から最終的な提案までの一連の流れを行っています。課題の設定にある程度の自由度を持たせることで、多種多様な見方・考え方を取り入れて欲しいと思っています。皆さんの事象の中から1つのテーマを見つけることは、高度なことでもあります。観光科学の演習としての対象地の設定と地域との連携、前期後期の演習の連携など、演習を通じて学科としての理念を学としてどのように示し、実践して行くかはいつも議論しています。ですので、今回のような形での学生さんからのフィードバックはすごく嬉しいですよ。

■片桐先生が捉える「南大沢像」

住み良いまちだと思います。特に、入念に計画されたパークシステムが興味深い。ここ数年、PBL で生活都市としてのニュータウン、里山との連続性を可能性を探ることを課題とするなかでも、いろいろな気づきが得られました。ただ、「一人で楽しむ」を想定したものが少ないので、私が居住地として選択することは難しいと思いますが、一人蕎麦屋飲みができないし(笑)。



▲グループに入り込み議論を交わす片桐先生



首都大学東京観光科学教室
学生企画・制作の情報誌
ツーリズムマガジン
←バックナンバー (Vol.1-Vol.35) はこちらから！
観光科学教室のその他の情報もご覧ください。

編集長：天目 岳志
編集委員：大川 恭平・菅井 颯・田村 優衣
発行：首都大学東京 観光科学教室